

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1275600128		
法人名	有限会社グループホーム光		
事業所名	グループホーム光		
所在地	千葉県山武郡横芝光町原方2486		
自己評価作成日	平成28年9月11日	評価結果市町村受理日	平成29年3月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku./12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート楽楽		
所在地	千葉県旭市口1004-7	TEL	0479-63-5036
訪問調査日	平成29年1月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑と光にあふれた環境下で、施設に多いコンクリートに長尺塩ビシートを張った床を採用せず、住宅と同様に木製の床組みをして木製の床材を張った施設です。歩いたときの足の感触や温かみ、足腰への負担がコンクリートに長尺塩ビシートを張った床とは全く異なります。また、太陽光発電(18kw)の電力を利用した床暖房も職員や高齢利用者の足腰や冷えからの負担を軽減します。
隣接する放課後等デイや学童との世代を超えた交流で幼老統合ケアを実現しており、子供たちから元気を貰う利用者の姿が日常的に見られるようになっていきます。夏の野菜づくりも上達し、皆で収穫の楽しみや味覚も味わうことが出来ています。これからも、より一層子供たち、スタッフ、利用者の三世代で園芸を通じてより交流を深め、利用者が子供たちの名前を呼べるような取り組みを行って行きたいと

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

緑の多い環境の中に通所介護を併設した平屋の複合建物で、太陽光発電や床暖房を備えた施設です。共有部分となるリビングは中庭に面しており明るく温かさを感じます。併設に通所介護があることで、なじみの友人に会うことができる等関係継続の役割を果たしており、同一敷地内に学童保育や放課後デイもあり、利用する子供たちとの交流も図れています。また、市町村との関係性もよく、連絡・相談体制ができています。支援では、iPadを利用し職員同士の情報の共有に努め服薬管理や排泄チェックなど行っており、おむつ外しも積極的に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な環境の下で、利用者がその能力に応じた訓練や生活をする事によって可能な限り自立した生活が営めるよう努めている。地域密着サービスの理念を事務室に掲示し、日頃から実践するよう努めている。	事業所理念を事務所に掲示し、職員が出勤時確認できるようにしている。ミーティング等では再確認し具体的な実践につながるよう工夫している。	事業所理念を玄関やリビングにも掲示することにより、より一層理念の共有が期待できる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	通所介護を併設し、隣接地で放課後等デイと学童保育を行っており、その児童たちや地元の様々な人達と接する機会が多く、また、ボランティアが来訪したり地元の文化祭・産業祭りに作品を出品したり、行事を催したり参加したりと多様な形で交流を行っている。	町内会に参加したり、また中庭を利用した行事等では地域の方の参加もある。通所介護を併設しており、隣接で放課後デイや学童保育も行っており日常的に様々な人たちとの交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の方が施設のことを質問された折に、認知症の状況について説明し、介護の相談等にも生かしている。また、利用者との散歩中に挨拶を通じて理解を求めようとしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月毎の開催が原則定例化しており、役場担当者、地域包括支援センター職員、町議会議員、民生委員、さらには年に一度警察・消防署員にも出席を依頼し、多方面の人達から運営上の意見や情報を得ている。	運営推進会議は、原則定例的に行われ、多方面に出席依頼され、会議では取組状況の報告や推進委員から活発な意見交換が行われ、得られた情報や意見をサービス向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場担当者や地域包括支援センターの職員が運営推進会議に出席して頂いており、様々な問題について話し合っていて協力関係を築いている。また、入退所の状況等は逐一報告している。	運営推進会議に役場の担当者、地域包括支援センター職員も出席され、事業所の実情やケアサービスの取り組み等を積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組まれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成し、すべての職員が閲覧できる様にしている。やむを得ず身体拘束する場合には、家族の同意を得、さらに記録を残している。それ以外に関しては職員による見守り、同行等で対応している。	「身体拘束がなぜいけないか」の根拠を学び話し合いを行っている。通所介護と各ユニット間の行き来は自由ですが建物内に死角が多く、また門扉も無くて直接目視が出来ないため、止むを得ず玄関に施錠をすることがある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各種研修等を通じて虐待行為が起らない様に、また、見過ごされることの無いように注意を払い、防止に努めている。		

[評価機関]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が成年後見制度の研修を受講して、都度、職員に学ぶ機会を提供している。また、利用者についても相談の機会を提供している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、契約や解約について職員が説明を行い、不明な点に関しては納得の行く様に更に説明を加え、質問に答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者について日頃のケアの中で把握する様にし、家族については面会や支払い・行事の際の来訪時、あるいは報告時等に話を聞くように努めており、運営推進会議に利用者のご家族に入って頂き、発信して頂いている。	様子や状況等を毎月手紙にて報告、家族からも面会時や行事等の来訪時に話を聞く機会を設け、運営推進会議にも利用者家族に入って頂き、意見、要望等を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回開催するケア会議で身近な問題について意見を交わしている。日常で事があれば職員は主任と話し合い、主任で決められない事については主任会議で話す事としており、職員の意見が伝わり易くなっている。	職員からの意見や要望も主任に上がり主任会議や毎月1回開催されるケア会議で、率直な意見が交わされ、運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心ややりがいは職場が楽しくなければ持てないので、和やかで笑いのある職場環境の整備に努めている。また、勤務については職員の希望を優先してシフトを組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の技能向上のための研修の機会はできるだけ設けている。また研修のための費用も会社が負担し、職員の負担を減らすよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の研修会に参加したり、当事業所で研修会を行ったりと、サービスの質の向上をさせる様に図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	多面的な見方ができる様、また十分なサービスが提供できる様に管理者、職員、介護支援専門員等と様々な形でのコミュニケーションを取ると共に、その情報の共有をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に十分話し合い、見学や希望があれば体験入所を行い、本人、家族の納得のできる状況での入所を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	直接入所するばかりではなく、デイサービスを利用したり入所体験をしたり等、様々な選択肢があることを説明し、見て頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護度が上がるに連れ、暮らしを共にするという関係が難しくなっているのが現状ではあるが、できる限り話しかける、手伝って頂くなどして時間を共有する様に心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方が会うことで本人が穏やかな気持ちになれるようご協力いただくなどしている。また、休日などを利用して施設を訪ねてくる家族も多いが、家族へのレスパイトサービスも担いたいと考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	実際に馴染みの友人が話をしに來たり演奏を披露しに來てくれたりしている。また、産業まつり、文化祭、地域のお祭り等に積極的に参加することで、知人や地域との関係が途切れない様に心がけている。	地域の祭り等に積極的に参加することで関係が途切れないように努めている。また、通所介護を併設していることもあり、友人と交流できる利点もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ほとんどの皆さんが日中はパブリックスペースで過ごしている。利用者が一人で部屋の中にいるような場合は、声掛けをして他の利用者と一緒に居られるようにしている。また、仲の良い人は同ユニットにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所になった方にも行事のお誘いや、電話で声を聴く、見舞い等によって見守りを継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	行為の意図を推測したり、意図を把握する等、仕草や身振り、声かけに対する反応等で思いの把握に努めている。 また、職員、家族、本人の情報を密にして、希望や意向の把握に努めている。	年齢、介護度の高くなってきている利用者を職員一人ひとりが仕草や身振り、声かけに対する反応等で思いの把握に努め、職員間、家族、本人の情報を密に希望や意向の把握に努め、ケアに活かされ取り組まれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や地域包括支援センター、病院や他施設、介護支援専門員からの情報を踏まえて把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	管理者、職員、介護支援専門員等と様々な形でのコミュニケーションを取ると共に、その情報を共有し、本人の様子など記録として残している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者が月1回のケア会議で意見をまとめ、面会時や電話、手紙で家族の意見等を聞き、看護師、医師等からの情報も考慮に入れて介護計画を作成している。アセスメントで退院時等変化の有った時に見直している。	利用者や家族から聞き取りした意向等を担当職員と話し合い、利用者本位の介護計画を作成している。適宜アセスメントやモニタリングを行い見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月に一度ケア会議、家族の要望等、また医師や看護師の意見を、個別のケアの実践・結果などで共有し、介護計画に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	学童保育に加えて、放課後等デイサービスで障がい児童の受け入れも開始し、「幼老障がい統合介護」の施設運営に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日ごろから地域資源の把握には努め、協力体制を築いており、地域のボランティア団体の協力もいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科医による月1回の訪問診療があり、日々の健康管理は看護師の職員が行っている。受診の際は家族と職員がその時の状況次第で対応している。治療方針は利用者本人や家族の意向に沿う様にしている。	月に1回内科医の訪問診療が行われており、また歯科医とも連携できている。健康管理は看護師が行っており、重要なことは職員で共有できている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の記録や気づき等は、看護職が出勤してきた際に伝え、適切な受診や処置が受けられるように心がけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、入退院等に備えて病院関係者との関係づくりを行う様心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、重度化や終末期にあたって「認知症対応型共同生活の看取りに関する指針」を説明し、同意書を交わしている。また、終末期には医療機関・看護師・家族との間で情報を共有し、事業所全体で終末期に前向きに取り組んでいる。	入居時に「重度化及び看取りに関する指針」を利用者・家族に説明し同意を得ている。重度化した時点で改めて主治医・家族・職員で話し合いの場を持ち情報を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	適時、救急救命講習等を地元消防署に依頼して実施しており、職員の対応力の向上に努めている。 施設内にはAEDも設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の人も参加する年2回の避難訓練。火報やスプリンクラーは整い、職員は火災の際の手順を理解している。食料の備蓄は3日分程度、水は貯水タンクに十分ある。太陽光発電(18KW)および電気自動車リーフにより停電への備えをしている。	避難訓練は年に2回実施しており、地域住民も1回は参加している。災害に備え食糧や飲料水、太陽光発電など備えている。	

[評価機関]

特定非営利活動法人ライフサポート楽楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は人格を尊重しながらケアするなど配慮しており、丁寧な言葉使いで優しく接することで利用者とのコミュニケーション作りや、暖かい雰囲気作りに努めており、言葉かけについて職員同士で工夫している。	職員は尊厳を重視した声掛けや対応を行っており、温かい雰囲気作りに努めている。利用者の表情もやわらかい。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自己の思いや希望を表したり決定が出来る様にと、言葉使いや接し方に注意しつつ、分かりやすい説明を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝時間などはなるべく本人のペースを優先する様、また、日中も好きな場所で好きな様に過ごしてもらうことを心掛けているが、特に夜間のトイレ介助などは職員側の都合によって行動してしまうこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員に資格者がいるので無料にて理容・美容をおこなったりしており、女性利用者には身だしなみを気にする人も多く、お手伝いをさせて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	専門職員1名が厨房で食事を作っている。好き嫌いを把握し、利用者の希望に添うようにしている。また、配膳や準備の手伝いなどはできるだけ参加を促すようにしているが、重度化によって参加できない人も多い。	食事はなるべく利用者の希望に添うようにしている。スイーツクラブと称し、定期的に皆でお好み焼きやお菓子作りなどを行っている。配膳等の手伝いも重度化に伴いできることが少なくなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は記録として残している。栄養士などの配置はないが利用者の好みに応じた食事を提供し、状態に応じて食べる量などは勘案している。食事は一人一人に応じた食べやすい形状にしてある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員が食事後口腔ケアを行う他、定期的な訪問歯科医が来所し口腔ケアを行っており、誤嚥性肺炎などの防止に効果を上げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別管理日誌や薬ノートをチェックして排尿、排便を確認し、自立に向けた排泄支援を行ってオムツ利用からポータブルトイレ利用に変更になった利用者もある。尿意の分からない利用者のパターンの読み取りが課題である。	利用者の多くは見守りや介助が必要であるが、声掛けやチェック表を利用して排泄の自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳を飲んだり、食物繊維の多い食べ物を取るよう工夫して予防している。適度な運動も勧めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の順序はできるだけ本人の希望を取り入れている。生活パターンからいうと夕方の利用が良いのだろうが、現時点では午前中の入浴になっている。入浴困難な利用者も入浴に繋がる様、支援体制を築いている。	一人ひとりの状態により、介助方法や支援の方法を工夫している。本人希望で毎日入浴も可能であり、最低でも週に2回入浴支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れた様子が見られたり、夜間に眠れない様子が見られた場合は、職員が付き添ったりして安心できるように配慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は「iPAD」からデータベースに記録し、職員間の情報の共有をしようとしている。また、会議において服薬の変更や症状についての共通理解を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜(畑)づくりや音楽療法、おやつ作り等、利用者の気分転換になるような支援を定期的に行っている。 普段は強面の男性が上手に歌を歌って周りを驚かせたりしていて微笑ましい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近辺の緑の中を散歩したり、町主催の産業祭・文化祭やイベント、地域の祭り等に参加したり、外食など季節に合わせた外出を支援している。行事等のある際は必ず声をかけて外出を促しているが、最近が高齢化・重度化によって外出の回数は減少している。	地域の行事に参加したり、本人の希望を聞いて外食など外出支援を行っている。重度化等で外出の機会は減少しているが、体調を確認しながらできるだけ戸外に出られるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関して認知症による症状が軽い場合には本人所持を支援している。希望があれば職員の付き添いで、クーポンによる買い物にも出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望すれば電話をしたり出来るよう支援している。携帯電話の所持や年始の年賀状なども本人が書けるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の植物を飾り、温度管理に配慮している。共用部分は十分な広さを有し、特に1日の大部分を過ごすリビングは中庭に面して明るく開放感があり、床暖房で冬でも居心地の良い空間である。小ぶりのテーブルで相性の良い人同士で囲めるように配慮している。	共用部分は中庭に面しており、明るく開放感がある。床暖房や空気清浄器等設置してあり清潔で居心地のよい空間となっている。また、テーブルは木材で手作りの物であり、高さも利用者に合わせてとても温かさを感じる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士が同じテーブルになるように小ぶりのテーブルを用意し、さらには一人用のテーブルも用意がされている。また、十分な広さのあるデイサービス空間への移動も可能としている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、空調・換気扇・クローゼットが備え付けで、入居時には以前から利用してきた馴染みのある家具や調度品を利用するよう勧めている。また、食器なども一律では無く個別の使い慣れたものを使用している。	入居時にはなじみの家具や調度品を持参してもらえるよう声掛けしている。食器や湯飲みなど使い慣れたものを使用している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール及び廊下にセキュリティカメラを設置しており、安全に配慮しながら施設(グループホーム2U+デイサービス)内での移動を遠隔からでも見守れる様に配慮をしている。		